

【足立区地域自立支援協議会子ども部会】会議概要

会 議 名	平成30年度 第4回 【足立区地域自立支援協議会子ども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	平成30年12月19日（水）
開催時間	午後2時00分 ~ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 研修室3
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	次第 1 開会 事務局より 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 課題について (3) 協議（意見交換） 3 事務連絡 (1) 第5回子ども部会について (2) その他
資料	平成30年度足立区地域自立支援協議会第4回子ども部会次第 第3回足立区地域自立支援協議会子ども部会議事録（公開用） 課題の一覧表（事務局）
その他	

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

1. 事務局より

（1）司会より挨拶

事務局勝田(あしすと)

お時間になりましたので第4回足立区地域自立支援協議会こども部会を始めます。

年末のお忙しいところお集りいただきましてありがとうございます。

資料確認

議事録作成録音説明

（2）所長挨拶(宮田 あしすと)

みなさんこんにちは。

お忙しい中お越しいただきありがとうございます。皆さんの活発なご意見よろしく願います。

2. 議事

（1）部会長挨拶

（2）課題について

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

それではさっそく議事に入る。

新しい部会が立ち上がり4回目だ。これまで、昨年度までのこども部会と大きく違うので、足立区内にあるこども関係の機関が、いろいろな課題を抱えながら育っているこどもたちの問題を共有しようと、いろいろ発言いただいている。共有するなかで、共通する話題・テーマがあがってきている状況と思われる。今日も、これまでの皆さんのそれぞれの立場からの発言をまとめていただいた（資料1）。どれも大事だが、我々が検討していく、取り組んでいくファーストチョイスがなにかを絞り込み、次年度に取り組んでいくよう共有していきたいと思う。ほぼ出来上がったと思う。ただ、前回、話題に出たように保健関係はいつから参加か。

宮田委員（あしすと）

まだ正式に呼ぶことを決めていなかったのので、了解いただければ次回呼びます。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

前回ぜひ参加をという発言があったので、5回目にはぜひ呼びいただきたいと思うが皆さんいかがか。

委員各位

はい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

様々な会議にほぼ保健師が入っているし、地域に深くかかわっていると思うので、この場でも話し合いができればいいと思う。今日いらしていない方は？

事務局勝田(あしすと)

本日の欠席者状況報告

（3）協議

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

出席いただいている方たちで進めていきたいと思う。資料1をご覧ください。それぞれ発言の中身がまとめられている。内容的に修正等があるのかなのか、これからこの表が重要になってくると思うので。ここでざっと目を通していただいて、ご意見などあれば言ってほしい。

寺山委員、いかがか。

寺山委員（足立つくし幼稚園）

前回発言者ごとにまとめていただいて、私の家族支援のなかで、保護者が気がつかず預けっぱなしの保護者が増えているという発言があるが、読めば読むほど、園というか保護者が何とかしなくてはいけないという感じで、自分としては本意ではない。園のスキルアップに関係するかもしれないが、職員の伝え方がうまくなくて、うまく伝えられないから、預けっぱなしになって

しまっているかと思う。

事務局勝田(あしすと)

表現の仕方を工夫する。

寺山委員(足立つくし幼稚園)

一番心配なのが、保護者、こどもの孤立。ネットワーク、専門職、機関同士が知り合う、つながっていく。地域とのかかわりも。窓口がはっきりしないことも私自身感じたことだ。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

限られたスペースの中でまとめているので、不十分さなどはあるかと思うが、出来るだけ食い違いが少ないようにしていきたい。

渡辺義也委員(興野保育園)

資料の話ではなく、先ほどの保健師からめてだが、大学の先生は(この場に)必要ではないかなと思う。先日、東京未来大学の学生が<あだちサンタクロース>で100人くらいきてくれ、学生の力が大きいなと思った。学生をまとめている先生や学生とのつながりをつくるのも大事かと思う。この会に大学の先生の参加も考えていいかと思う。これは、先ほどの資料の中にも出ている、機関連携にもつながるのではないかと思う。

松永委員(北千住すてっぷ)

私は、家族支援、機関連携などをあげた。書ききれないと思うが、全般として家族支援にかかわるところを考え直す必要があるかと思う。

渡辺先生がおっしゃっているように、学生などこれから子どもに関わろうとしている方の意見も見落としていたと感じている。巻き込む形で連携できたらと思う。

防災時、私の事業所のスタッフは女性が

多く、自力で避難するのが難しい状況がある。命にかかわる問題については、連携などで解決できることがあるのではないかと思う。感染症対策も、放課後デイでは指針がないので、指針があれば従いやすいところもある。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

防災の話は、またあとでまとめたいと思うが、地域の防災関係で何かあるか。

宮田委員(あしすと)

学校単位で防災組織がある。町会、消防署、避難所運営会議などもある。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

渡辺委員、そういう意味でのネットワークはあるか。

渡辺義也委員(興野保育園)

消防団は結構しっかりやっている。フォーラムの仲間も活動している。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

例えばうちの場合、避難訓練をやると、避難場所が河川敷で、そこまで避難しなくてはいけない。災害で通行止めになることも考えて、出来るだけいろいろなルートを通して避難することを心がけている。避難するときにお巡りさんが声掛けしてくれるが、交番のお巡りさんは、地域にこういう子どもがいるということを知らないかもしれない。お巡りさん全員に知ってもらいたい。もっといえば通る道の近所の方たちにも。そうしたことを通して、事業所で草の根的に地域の子どもたちの防災ネットワークができてくるのではないかと思う。こういうことが具体的にできてくるといいと思う。学校ではどのように対応しているか。

林田委員(城北特別支援学校)

年に一度大きな防災訓練をしている。

外に出ていくことはまだしていない。

古里委員（南花畑特別支援学校）

スクールバスが止まった想定での訓練は
していて、交番のお巡りさんが関わっている。また宿泊防災訓練では、地域の方にきて
いただいて、一緒に関わってもらっている。

林田委員（城北特別支援学校）

何かあった場合は、まずは（家に）帰さ
ないかたちで非常食もある。区の二次避難
所に指定されている。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

みなさんそういうことは知っているか。

事務局勝田（あしすと）

昨年度ネットワークなどでも説明してい
るが、なかなか浸透は難しい。一時避難所
から二次避難所へというお約束がある。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

保育園はいかがか。

渡辺義也委員（興野保育園）

うちは土手だ。幼稚園も義務付けられて
いると思う。

補足で、おそらく民生児童委員が、消防
団と連携し、自力で避難できない人を救い
出す仕組みが出来ていたと思う。

寺山委員（足立つくし幼稚園）

町会を通じて要支援リストが渡されてい
る。施設として、この地域にこういう施設
がある、等周知されるだけでも違うと思う。

松永委員（北千住すてっぷ）

町会にも入っているし、商店街などにも
顔を出している。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

制度、仕組みがあっても動いていない、
知らない、ということがある。テーマを絞
り、こども部会の中で考えてみるのもあり

かと思う。

ありがとうございました。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

渡辺直子委員お願いします。

渡辺直子委員（ネットワーク）

前回までの話で障がいの受容ができない
保護者はなかなか支援につながりにくい
という話があったと思う。障がいの受容には
時間がかかる。私の長男は一歳半検診で障
がいが判明したが、受容に時間がかかった。
通常級の保護者の方は、知的に障がいがない
と思っていたところに、問題の判明が一
度にやってきてパニックになることもある
かと思う。保護者が自分のこどもに向き合
うには時間が必要で、保護者・支援者お互
い目指すところは同じなので分かり合える
といいと思う。足立区はペアレントメンタ
ーを推進してくれていて、教育だよりの掲
載を見て電話をかけてきた方もいる。学
校・園との関係の相談も多いが、ママ友同
士こじれてしまう相談も結構ある。こうい
うときは学校の先生にも言いつらいと思う
ので、経験あるピアカウンセリングを活用
いただけたらと思う。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

保護者としての活動などでいろいろな思
いをされてきたなかで、孤立というキーワ
ードをあげてきたと思う。

これもかなりデリケートな部分あるが、
どんなアプローチがいいのか、どんなもの
が使われているかなどがあると思うので、
ユーザというか使われている立場として、
発信していただくと、解決策が見つかるか
もしれないと思う。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

孤立というところ、保護者の孤立、その

保護者が子どもを育てている、障がいを受け入れている保護者・いない保護者と別れてしまい、こどもに影響が出ることも含めて話をさせていただいた。学校の対応も多様かと思う。親の会の会員では顔も名前も一致しない方もいるが、相手にすると、顔が見えないほうが相談しやすいということもある。夫と教育方針があわず離婚を考えているがどんな支援があるか、自分がうつでどうしたらよいか等の相談もある。そこまで追い込まれないと相談しないのかなと思う。そうなる前に、親同士や、学校・保育園等に聞いてもらえる環境はなかったのかなと。学校で相談したけれど冷たい、という反応がほしい。身近にいる人、夫にも障がいの理解をしてもらえない。ご家族のいい相談役は欲しい。そこがだめなら行政でなんとか、ひとり親支援などもあるかと思うが、最初に相談を受けてくれるところが、がっちり受け取ってくれば、こんなに迷うこともないのかなと思う。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

相談支援事業所、相談支援専門員の位置づけが出来て、たとえば足立区で今こども関係の受け入れ先は何か所くらいあるか。認可を受けているところはいっぱいあるが、ある程度把握できているもか。

事務局勝田（あしすと）

いくつかはあるかと思うが、先日研修で50人くらい集まったが、全てのこどもに計画相談が入っている事業所はなく、セルフプランがほとんどかと思う。

松永委員（北千住すてっぷ）

その通りだ。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

相談する場所が圧倒的に無いと思う。あ

るかどうかも知らない人がたくさんいると思う。このへんの周知も必要だ。

宮田委員（あしすと）

区では相談はげんきでも受けている。

上遠野委員（こども支援センターげんき）
年間1000件くらい受けている。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

専門のところに相談するのは敷居が高い。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

もっと手前のところで悩んでいるのに、（障がいという）看板が邪魔してしまう。愛称はあっていいと厚労省も言っていて、うちも“うめだあけぼのこども相談事業所”として、小さく正式名称を書いている。

上遠野委員（こども支援センターげんき）

（発達支援係が）障がい福祉センターにあったときよりは、げんきに移ってからのほうが、年間100件位相談も増えて、来やすくはなっているが、それでも行政機関にくるのはハードルが高い。まだ保健センターの方がやりやすいかと考え、ハードルを下げる工夫はしているが、こんな風にしたら等ご意見いただきたい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

もう一つ外国籍、文化の違う方、言葉の問題が大きいと思うが、実数としては増えているか。

上遠野委員（こども支援センターげんき）

増えている。外国籍の方の伸びのほう大きい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

日本語に堪能な人だけでなく、こうした方の子育ての問題を抱えたときのことも考えていかないといけないと思う。

事務局勝田（あしすと）

児童館、子育てサロンなどでも相談を行

っている。気軽に相談して、次に保健師さんにつなぐなどもしている。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

お母さん同士で情報交換する場所がある。

事務局勝田（あしすと）

それは、子育てサロンだ。ただ積極的なお母さんは関われるが、関われないお母さんにどう働きかけていくかという課題はある。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

私もあけぼの学園でお母さん方から障がいを受け入れていく覚悟を教わった。受け入れができる環境だった。障がい云々の話が出てしまうと、耳に入らない、保護者同士の話を受け入れられないなどもあるかと思う。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

公的な機関に近いところがある。それをリストアップして、使いよさなどを分析して、結果として、今あるものを上手に使用した目的達成もあるかと思う。もう少し違う受け皿があれば、それもやってみるなどもあるかと思う。結果的にそういうことはあり得ると思う。現実いろいろなものがあると思うが、十分機能していない、知られていないかと思う。そこをフル稼働させていくと解決できる、そういう話は多いように思う。

宮田委員（あしすと）

相談機関はたくさんあるので、まだ知られていないところもリストアップしていく。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

こどもが出来た時さっとつながるところはどこか、保健所、げんきがあるのはわかるが、ほかにもあるような気がする。

おもちゃ図書館なども。

事務局勝田（あしすと）

住区センターなどの児童館は、赤ちゃん乳幼児活動などもやっている。常にではなく月に1回程度だが。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

そういう情報は区民には？

事務局勝田（あしすと）

広報やHP、地域の掲示板、回覧板などで周知している。

ただそこで相談できるかというよりは、次の相談先につなげる役割だと思う。

竹内委員（肢体不自由児者父母の会）

「うちの子、なんか違う」などと言えるお母さんはなかなかいない。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

出来ればハードルを下げて、「障がい」というものを消して、子育て相談みたいところを作って、そこでお母さんが相談できる場につながるといい。ハードルを下げたところがもう少し広くできて、そこが障がい支援の機関などと連携できるとよい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

そういう意味でも保健師にはいってほしい。保健センターの親子教室などでどんな対応しているか、どんな課題があるかなどを知りたい。

事務局勝田（あしすと）

気になるお子さんを集めてグループを作り、あしすととげんきから職員派遣をしている。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

その子たちの様子、規模などはどうか。それこそ、義務教育年齢で3.8%、それにプラス6.5%で合わせて一割だ。それよりまだ多くなる可能性がある。

事務局勝田(あしすと)

あしすとの初回につながる年齢としては、一歳半検診を受けて、一度げんきに行ってみれば、というところで2・3歳、それから3歳時検診、最後に小学校にあがる前だ。節目節目で何回がある。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

そういうところがあるのに窓口が足りないという話がある。

事務局勝田(あしすと)

そこに行きつく前に気軽に相談できるとよいが。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

学校などはどうか。

林田委員(城北特別支援学校)

学校にいらっしゃる方については、外部でも外部支援という形で学校間の支援をしている。それでも学校に入る一年前くらいからだ。

上遠野委員(こども支援センターげんき)

就学相談は年長の5月からだが、年々数は増えている。実際にはそういう相談をまったく受けず、通常学級に入るお子さんもいる。その結果、子どもが苦しくなり、3・4年生くらいで二次障がいなども出てくる可能性もあるので、相談の敷居を低くするのは大事かと思う。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

昔は就学相談にいくと、あっちいけこっちいけと言われたということも聞いたが、今でもあるか。

上遠野委員(こども支援センターげんき)

今でもある。委員会で判断し、保護者はそれを聞いた上で決めることになる。

林田委員(城北特別支援学校)

10年前は年長の見学が多かったが、最

近は年少、年中の見学も多いと感じている。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

ある特定のこどもに目をつけて、経過をみて(先生などを)評価していく。そういう保護者も増えてきたように思う。

古里委員(南花畑特別支援学校)

学校公開に来る方も増え、2回だといっぱいな状況だ。年少位から見に来ている。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

うちも年齢制限なく就学相談を年2回実施している。1回目は教育委員会の方を、2回目は保護者のOB・OGをよんでの経験談などをしてもらっている。最初の一大岐路なので関心は高いと思う。

竹内委員(肢体不自由児者父母の会)

そこに来られる方は意識が高い方。

江黒委員(手をつなぐ親の会)

検診で行って見ない、と声をかけても、行かないですり抜けてしまう。軽視?嫌?小学校の判定も無視して入れてしまう。子どものことを考えていない。プライド?こどものためではない。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

城北分園はどうか。

内山委員(北療育医療センター城北分園)

一番早い相談は生後3か月。3か月検診で、うちの子ちょっと首の座りが遅い等で。足立区は保健師がかなり身近な相談先になっていて、こうした場合あわせて保健師さんから情報をいただけることも多い。3か月でも一度受診にきていただいて、不安を作らないようにしている。問題がなかったよね、と幼稚園などに巣立っていく子もいる。

江黒委員(手をつなぐ親の会)

それは保健所からか、それともお母さん

からか？

内山委員(北療育医療センター城北分園)

お母さんが直接、ネットとかで調べて。それと都の<ひまわり>に電話して聞いてきたというのものもある。中にはこれ(くらいな状況)で電話してくるのかというようなものもある。誰にも相談できないけれど、ネットとかで調べて、遅れが気になるなど。肢体などで重い障がいがあると相談できるところはたくさんあるけれども、気づきのときに、お母さんが気づいても、出産した病院が大丈夫と言う、でも不安がある場合などもある。障がいという言葉でくらないで、子供たちの発達の心配事として。相談先はたくさんあると思うが、HPなどで、『足立区相談』と検索すると、ぼんと出るようなものがあるとよい。適切な時期に相談できることが必要だと思う。

江黒委員(手をつなぐ親の会)

相談の電話があって、診察までにはどれくらいかかるか。

内山委員(北療育医療センター城北分園)

うちは今2か月くらいかかる。そうすると相談時には立ち上がれなかった子が立ち上がれるようになったなど問題が解決することもある。その場合はキャンセルでも、相談することでお母さんがたが安心してくれればいいと思う。予約方法も検討している。ほかの療育センターも同様だと思う。診察を受けるまで相談支援機関と連絡をとって、心配ある方をつないでもらっているが、それでも不安で、診察まではお母さんたちに不安を感じさせてしまっている。

竹内委員(肢体不自由児者父母の会)

相談したいお母さんはだれに相談したいかと考えたとき、だれと話ができるかを考

えるかと。人それぞれ違うので、児童館などでもっと簡単に、聞けるところがあったんだとわかるものがあるといいなと感じている。

それと絶対に行くところは小児科。そこに、『心配ごとがあったら』という目に留まるものがあれば、行くきっかけになるかと思う。年齢でその時期に相談する場所は決まってくるので。ネットはいいように使うといい情報があると思う。目に留まるということが大きいと思う。幼稚園・保育園でも先生方が情報を持っていると、幼稚園等で抱え込まなくていいこともある。お母さんたちはタイミングがあったとき、言葉になると思う。

加藤部会長(うめだあけぼの学園)

そうすると、我々側がこうした知識をどこまで持っているかがあるかと思う。バラバラかと。職員の知識、研修などの話も出てきているが、そういう意味での情報の徹底、これだけは知ってほしいことをどこまで共有できるかもあると思う。研修といっても小さな事業所では難しかったり、出来ていそうで出来ていなかったと思う。

渡辺義也委員(興野保育園)

おっしゃる通り、保護者支援も視野に入っている。本来、意識のある園長は地域にネットを張ってやっているが、現状園を増やすことが中心で、園の先生で相談窓口がわからない方が増えていると聞いている。かつて保育施設は私立で20園位しかなかったのが、今年は100になり、来年また増え、最終的には120以上になる。区外から入ってきて保育園がわからないということもある。なかなか追いつけない現状がある。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

そのあたり解決する取り組みはあるか。

渡辺義也委員（興野保育園）

できてない。新しいところをどのように仲間に入れるか。それとそのうち空きもできてくる。幼稚園との連携もできてない。自分たちが生き残ることがいっぱいでも考えてられない現状がある。幼稚園も一緒だと思う。

寺山委員（足立つくし幼稚園）

幼稚園も同様だ。個別指導も難しい。でも集団指導のメリットもある。障がいのある子だと幼稚園に入れないのではと隠そうとする。その時にアプローチとして、うちの幼稚園では対応が難しいかも、でも専門機関で検査などしてもらえれば対応がとれるなどといってあけぼのやひよこにつながった方もいる。私たちのかわり方も仕組みなどを理解することが必要と思う。前回は話にあったが、幼稚園でも、（障がい等で）対応できないので退園してください、公立保育園にいったくださいという話もきく。（幼稚園の職員の）コミュニケーションスキルが足りない、でもそのスキルアップも難しい。（保護者は）障がいという言葉があるとバリアを張っちゃう。発達支援というと結構入る。ネットワーキングのチラシの発達障がいのある子どもを育てた経験が引かかる方もいる。障がいセンターには行けないけど、発達センターならと。ユニバーサルデザイン、みんなにとっていいこと、ということが伝わらないと、みんなの意識の変化も図りたい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

話題が広がっているが、残りの時間でキーワードがいくつかあるかと思う。例えば

防災、また情報の窓口、アクセスの仕方、あるいは、異文化の人たちとの共生、ネットワーク、制度仕組みはいっぱいある。足立区は23区の中でも資源は多いが連携できていないところもある。頑張っているが。これは区民にとってはあまりいいことではない。又は孤立感。東京という地方特性もあるかと思う。核家族の進行、打ち解けて話ができる、相談できる人間関係が身近にないところでいろいろな問題を抱えている方をどうするか。さらには最低限、この地域でこんな制度があって、キャパシティがあって、こんなふう動いていると関係者の共有、支援者として我々がそういう意味での共有を持てばいいのか、より持つにはどうしたらいいのか、研修をたくさんやればいいのかというわけでない。

次年度にテーマを掘り下げていく、具体的に動く方向に持っていかたいと思う。次回は今年度最後ですので、それを共有していく。次回は保健師にもぜひお越しいただきたい。

この中で、これをぜひという提案が皆さんからあればと思うが、いかがか。どれも重要なことと思うが。

竹内委員（肢体不自由児者父母の会）

私の言葉のなかで、地域を上手に使われていないということばばピンとこないかなと。「地域とのかかわりが難しいことが課題」と書き直させていただけたらと思う。

事務局勝田(あしすと)

修正する。

古里委員（南花畑特別支援学校）

保護者会の例でこうなったが、地域がつながるための学校の役割、「保護者が孤立しないための支援」という感じに直してい

ただきたい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ポジティブな表現にということ。

寺山委員（足立つくし幼稚園）

根底にあるのが、連携がうまくまわるように、まわりと共有することで解決するかと。ネットワーキングだと思う。

松永委員（北千住すてっぷ）

ほとんどがここに関係してくるかと思う。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

先ほどからその話がずっと出ているので。連携だけだと広いのももう少し絞り込みが必要ではないか。どういうふうにつながっているか、うまくいっているのかなどネットワークを俯瞰してみるとよい。

寺山委員（足立つくし幼稚園）

それと周知の大切さ、私の幼稚園だとだいたい健常児といわれる方ですが、例えば身体障害者手帳や愛の手帳を持っている方はすでに色々つながっている。持っていない方というのが分かれ道になるというか、そういう方が相談にいけるところ、ペアレントメンターやサロンのようなところがあるといい。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

一人ひとりが足立区の全キャパシティをつなぐのは難しいと思うのでそれぞれの機関がどうつながっているかなどのダイアグラムなどを作って持ち寄るといいのかもしれない。そこで気づきや発見があるような気がする。自分が今一番つながっている機関等を関係図にして。それをもちよってはどうか。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

そうすると自然と関係性がないものも出てくる。

宮田委員（あしすと）

事前に提出いただいて事務局でまとめる方向でよいか。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

それでいい。

松永委員（北千住すてっぷ）

A4一枚程度か。

渡辺義也委員（興野保育園）

地域ぐるみのいろいろな関係もあるので、かなりすごいものになるかも。

寺山委員（足立つくし幼稚園）

障がいというキーワードでしぼりこんで。

内山委員（北療育医療センター城北分園）

こどものところの關係に絞ってでよいか。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

はい。

渡辺義也委員（興野保育園）

自分のところのものでよいか。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

はい。

具体的に固有名詞を出していいと思う。

それと足立区のガイドマップとのリンクもしてより具体的に。

江黒委員（手をつなぐ親の会）

最終的にはここにいるメンバーがつながるとよい支援ができる。

加藤部会長（うめだあけぼの学園）

ではよろしく申し上げます。今日はこのあたりでと思います。

事務局勝田(あしすと)

議事録はまた事前に皆様に送付し、確認いただいて公開します。

次回案内

事務局勝田(あしすと)

以上で第4回こども部会を終了いたします。